



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 2020年度第1回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナーを開催

高知家総合診療専門研修プログラム
事務局 阿波谷敏英 (高知大学医学部)

高知県内の総合診療、家庭医療のプログラムで合同のポートフォリオ発表会、総合診療セミナーを7月12日(日)に開催しました。Zoomによるオンラインで開催という初めての試みでしたが、48名(県内28名、県外20名)と多くの方にご参加いただきました。職種別の内訳は、医師32名(専攻医5名、初期研修医4名を含む)、看護師1名、薬剤師13名、事務職2名でした。多職種の参加をいただけたこともとても良かったことでした。

前半は専攻医がポートフォリオを持ち寄り、互いに発表しブラッシュアップをおこないました。行動変容、地域ケア、患者中心の医療、組織運営、プロフェッショナリズムと内容もバラエティに富み、一つ一つが専攻医の学びがうかがえるものでした。参加者から、音声やチャットでご意見も伺えました。ご意見は、プログラムに関与している指導医等から伺えることが多く、オンラインということで、今回、初めて参加した方は発言しにくかったかもしれません。今後の検討課題にさせていただきます。

後半は、総合診療セミナーとして王子生協病院の密山要用先生にお願いしました。「地域志向ケア～総合診療医(含むプライマリ・ケア専門家)が地域とかかわっていくには～」というタイトルで2時間のセミナーでした。同じく王子生協病院の漆畑宗介先生にもご協力いただきました。密山先生からは、理論的なお話を、漆畑先生からは実践例をお話いただきました。専攻医からは、住民との距離感に関する質問もありました。都市部と過疎地域ではコミュニティそのものの性質の違いもあり、その関わりも違いがあるように感じました。コミュニティに関わるのが、そんなにハードルの高いことではないことが伝わるワークショップでした。

終了後に、参加者アンケートをWebで行いました。48名のうち36名の方から回答をいただきました。ポートフォリオ発表会は94.1%の方から、総合診療セミナーは100%の方から、「とても満足」「やや満足」という肯定的なフィードバックをいただきました。その他、以下のような自由意見をいただきました。



- ・スライドもよく見えて、発表内容も発表者の表情もよくわかって、素晴らしかった

- ・オンライン発表会で、県外から参加いただいている方々の意見が聞けて良かった
 - ・オンラインならではの発言のしにくさやポートフォリオ内容の再確認の難しさを感じた
 - ・ポートフォリオは初めて見たが、今後自分が症例報告する際にどのようにしたら見やすくなるのか、この症例から何を学んだのかを意識して作ることが大事だと思った
 - ・内容は良かったが、質疑応答を盛り上げる方法を考えられたらと思った
 - ・薬剤師におけるポートフォリオ作成の研修開催がなく、今回の参加によりポートフォリオの記載・考え方・まとめ方等大変参考になった
 - ・コミュニティドクターやコミュニティナース、コミュニティフェロシップに関しほぼ知識がなかったため、かなり実際的な内容を教えてくださり勉強になった
 - ・コミュニティケアについて実践的なところも聞かせて頂き、具体的にこのようにするのだとイメージも湧きました。しかし、実際自分でできるかといわれると、性格も手伝って、難しそう…とさらにハードル高く感じた
 - ・薬剤師も今後は地域に出るの活動が必要と感じさせられた内容であった
 - ・理論のみで実践の仕方がわからなかったのできっかけ作りに繋がりそうだった
- 発表いただいた専攻医の皆さん、ご講演をいただいた密山先生、漆畑先生をはじめ、ご参加いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

★2 日本プライマリ・ケア学会員協力によるサマーセミナーを開催

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

令和2年8月23日(日)10:00~12:00に地域医療学講座主催で日本プライマリ・ケア学会員協力によるサマーセミナーを開催しました。前期はほとんどの授業がmoodleでの配信授業になり、後期もこのままだとさらに続くことが予想されています。さて、今回の医学生サマーセミナーは、愛媛大学地域枠、地域医療学所属の基礎配属学生、自治医大の5年生に参加を促しての開催でした。本来なら夏季は地域の医療現場での活動や懇親会を通しての交流が行われる予定でしたが、今年はZoomを使ったWeb会議方式で代用させていただきました。

日本プライマリ・ケア学会員協力によるサマーセミナーを開催

日時：令和元年8月22日(日)10:00~12:00

場所：Web

参加者：33名

最初は、愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教の菊池明日香先生から先生のお得意分野である「地域医療でのコミュニケーション」ということでお話いただきました。人の褒め方、怒り方によって相手にどう響くか、言葉の使い方ひとつで相手の胸にどのように伝わるかについて仕組みをわかりやすく説明いただきました。これは恋人同士の会話にも活用できるということでした。

次は、地域医療学講座助教の二宮大輔先生から「野村町における地域医療活動と魅力」と題してご講演をいただきました。地域医療の魅力と先生が普段から実践している活動信念についてお話いただきました。地域には料理の専門店が多いけど、要望の多い大衆食堂が以外と少ないとの例えが、専門診療と総合診療との関係について「的を射た表現」だと感心しました。

次の講演は、愛媛県最南の愛南町で活躍の嶋本純也先生から「愛南町における地域医療活動と魅力」

と題してご講演をいただきました。へき地に居ながら米国の公衆衛生学修士 (Master of Public Health, MPH) を取得された先生です。地域においても、都市部と変わらぬ学習ができるということ、今や子供の教育も Web を使って可能ということで、へき地における将来性をお話いただきました。

ワークショップはできませんでしたが、学生には「将来、愛媛県においてどのような地域医療を実践していきたいか。」をテーマに夏休み明けまでにレポートを提出するという宿題を課せました。最後に西予市立野村病院副院長の大塚伸之先生から閉会の挨拶をいただきました。2時間があったという間に過ぎた楽しい会でした。



★3 新専攻医オリエンテーション&春のポートフォリオ発表会のふりかえり

愛媛生協病院家庭医療科
原 穂高

2020年4月18日(土)に、2020年度四国ブロック支部 新専攻医オリエンテーション&春のポートフォリオ発表会を開催し、振り返りとして、本稿では寄せられた感想や意見を共有します。

◇オリエンテーション

研修スケジュール説明について。新家庭医療専門医制度というのをはじめて知りました。プログラム構成がとてもよくわかりました。

研修手帳の使い方について。存在意義がわかりました。手帳がどのようなものであるか、どのような注意が必要かなどよくわかりました。研修しながらこのようなもの同時作成ってかなり大変だろうなあと思います、初期研修の際のも同じようなものなのでしょうけど。

ポートフォリオについて。ポートフォリオの書き方がよくわかりました。ポートフォリオとなるような症例と思いながら診療するのが良いと思いました、どうしても事後になってしまうので…。すっかりしました、勝手に作ったポートフォリオがあってここ数年間更新していなかったのを改めて再開しようかって、指導医、おじさんおばさん医にとってもいい振り返りになる記録ですね。

総合診療研修のTIPSについて。研修を進めるにあたり、大切にすべきことがよくわかりました。すごくわかりやすい事例で総合診療医の実践・やりがいを伝えていたと思います。日々の自分の診療を反省しました。これがマルチモビディティの際には途端に大変になりますよね、スマートにしたいなって思いながらめんどろになっちゃう歳になりました。

◇ポートフォリオ発表会

植本真由先生(香川)。SDM(Shared Decision Making)について初めて知りました、emotionalになりがちな終末期に様々なツールを利用して冷静に患者さんや家族と向き合って素晴らしいプロフェSSIONナリズムだと思いました、SDMについて学びたいです。患者さんの紅まどんな〔健康因、

value]を確認し関わったことは医師患者関係のみならず、終末期を迎えたこの方の一つの心の癒しになったと思います。訪問したからこそその経験・学びだったと思います、患者本人が亡くなられた後の訪問などの記録は患者カルテに残すのかな？家庭医ならではの経験だと思います。患者、家族、医療者の思考、想いをSDMという形で共有する手法を日常診療にも取り入れたいと思いました。

近藤啓介先生（徳島）。自分の目で確認することの重要性を痛感しました。実際見に行くことが大切と感じること私も多いです、とても身近な内容でポートフォリオの題材になるんだと思いました、羽生善治さんの話面白かったです。今回の事例のように患者さんが行う手技に注目して振り返りを行うことはすごく大切な視点だと思います、マクウィニーの家庭医療学・下巻 生涯自己教育を枠組みの参考にしてみてください。Kolbの学習サイクルについて、患者さんの評価だけでなく自分自身の学びにも活用できると思いました。経験を上手に言語化されていると思います、そのプロセスを後輩の医師、学生にもお伝えいただければと思います。

山内紘子先生（高知）。ADDIEモデル（Analysis, Design, Development, Implementation, Evaluation. 教育研修のデザイン）について初めて知りました。IPE(Interprofessional Education. 多職種連携教育)は大事だ大事だと言いつつ教育に取り入れてなかったのが参考になりました。多職種連携はこれから必須ですね、自分だけでなく医療機関の成長のためにも良いと思います。多職種連携は地域医療現場を楽しく効果的にするうえでとても重要だと思います。教育に関わるのが一番の学びになることを実感しました。教育のポートフォリオ、本当にイメージがわいてなかったのが参考になりました。

◇全体を通しての要望・コメント

ウェブ会議ってのは案外おもしろいです。Webは初めての経験で少し戸惑いましたが、時間をかけて移動しなくてよいのが便利だと思いますが少し慣れが必要ですね、もっとも定期的に顔を合わせていないと特に初対面の人とは難しそうです。初めてのWeb開催で心配しましたがクオリティの高いものになったと思います、新専攻医には対面の機会もあった方が良いでしょう。今後Web開催も上手に併用できればと思いました。初めてのWeb開催でご苦労もあったと思いますが、参加しやすいことから参加率も高かったのではないかと思います、これも悪くないと思いました。このシステムとても良いですね！みんなありがとうございます、飲み会ができる日を楽しみにしております。このZOOM会議いいですね、とても参加しやすかったです、今後もこのような形でどうでしょう、対面の良さはありますがこうして行う事も参加しやすい人が増えるとも思います。前もってポートフォリオの題名のみでも事前に出していただければ議論が深まると思いました。発表している際、司会の先生だけでも顔が見えているととてもやりやすかったです、気になったことをすぐに調べられ共有されることがWeb開催よいなと感じました、Zoomの使い方さえわかればとても手軽でよいと感じました。Webでも他の専攻医とのつながりができ、よかったです。

今回、参加集約をかねてグーグルフォームのアンケート機能を利用しました。運営として今後は頂いたアドバイスを生かして、さらに楽しくて学びになるオリエンテーションやポートフォリオ発表会を企画開催していこうと思います。

秋のポートフォリオ発表会は秋の四国ブロック支部地方会（愛媛）で開催します。現地+オンラインのハイブリッド開催です。みなさまの参加を心からお待ちしています。

★4 第20回 四国地方会・第27回四国地域医学研究会 合同学術集会のご案内

大会長(愛媛県立中央病院) 杉山 圭三

さて、なかなか新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せず、多くの学会・集会在延期や中止になり、Web開催に切り替えられたものもありました。本学術集会の開催につきましても、延期や中止すべきかと悩まれましたが、待っていても恐らく永久に感染が無くなることはなく、いわゆる With Corona を模索すべきと判断いたしました。なにぶん規模が小さな四国支部の地方会であり、全国学会のような準備も出来ませんので、我々の規模で手作りで出来る学術集会を開催したいと思います。感染防御に留意しつつ、現地参加を基本に、各県の流行状況次第でWeb参加の対応をと考えております。あまり大勢がWeb参加になりますと、様々な対応が困難になりますので、特に愛媛県内の皆さまには現地参加の方針でご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

(Web対応につきましては、共催の地域医療振興協会様のご協力を得て、Microsoft Teams を使用する予定です。PC、Mac、スマホ、タブレットなどのアプリが有りますので、必要に応じて各自でインストール等をお願いいたします。Web参加のご案内は、登録いただきましたメールアドレスへ送付の予定です。)

今回の合同学術集会では、「総合診療医の将来像」をメインテーマとして、専攻医と指導医によるシンポジウムを企画いたします。また、教育講演としまして、愛媛県立中央病院で新型コロナ対応にご尽力されておられます、感染制御部の本間義人先生にご講演いただく予定です。タイムリーなお話を伺える貴重な学びの場になることと期待しております。二日目には恒例の専攻医ポートフォリオ発表会も予定しております。どうか皆さま、マスク着用と手指衛生にご留意の上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。(会場に手指消毒とマスクをご用意いたします。)

【開催日程】

令和2年11月14日(土) 14:00~18:30

※四国地域医学研究会総会を13:00~開催予定

令和2年11月15日(日) 8:30~12:30

【会場】

愛媛県立中央病院(愛媛県松山市春日町83番地)

管理棟 1階 講堂 および 4階 会議室

URL: <http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/index.htm>

【プログラム予定】

【第1日目】11月14日(土)

(13:00~13:30 四国地域医学研究会総会)

13:00~ 受付開始

14:00~14:10 開会式

14:10~15:10 一般演題

15:15~16:15 教育講演

愛媛県立中央病院 感染制御部: 本間 義人先生

「プライマリ・ケア医が知っておくべきCOVID-19 ~疑うポイントと感染対策~」

16:20~18:00 シンポジウム

「討論: 総合診療医の将来像 ~専攻医からの視点と指導医からの視点~」

18:10~18:30 四国ブロック支部総会



※懇親会は開催有りません。

【第2日目】 11月15日 (日)

8:30~10:30 ポートフォリオ発表会

10:40~12:30 一般演題

12:30~12:40 閉会式

【懇親会】

今回は、新型コロナ流行を考慮し、懇親会は開催いたしません。

Web 飲み会については可能性がありますが、未定です。

【会費】

学術集会参加費 1000円 (学生無料)

※当日会場参加の人は現地徴収、Web参加の人は後日振込等で徴収予定。

【単位】

日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医更新単位

日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師更新単位

【参加申し込み】・・・Dropbox からフォーマットをダウンロード可能、学会HPからも可能になります。

学術集会の参加申し込み

参加申し込みの締め切りは、令和2年9月30日(水)までといたします。

Dropbox 内の参加申込書にご記入の上、FAX又は電子メールにてお申し込みください。

学会HPの地方会案内ページからの申し込みが可能になるように準備しております。

※電子メールでのお申し込みを優先していただけると助かります。

通常通り、会場参加を基本(優先願います)といたします。

Web参加につきましては、Covid-19流行状況などにより、可能な限り対応いたしますが、接続トラブルなどの対応や画質などの保証が困難と思われま。参加申し込みの際に、備考欄へWeb参加希望の旨をご記入ください。

【一般演題およびポートフォリオ発表会の申込み】

詳細は以下のDropboxLinkもしくは学会HPの地方会ページからご確認ください。

【参加申し込みおよび発表演題申し込みフォーム等のDropbox Link】

<https://www.dropbox.com/sh/8d2f2cezrsx1rtf/AABx6tUcNxPj359jCSyhFDpZa?dl=0>

指導医講習会につきましては、今回現地開催を中止させていただきます。詳細は学会HPをご参照ください。

【申し込み・問い合わせ先】

合同学術集会事務局

〒790-0024 愛媛県松山市春日町83番地

愛媛県立中央病院 総合診療科 杉山圭三

TEL 089-947-1111 (代) FAX 947-1126 (医局内)

E-mail : jpca-ehime2020@outlook.jp

